



③「最初沈殿池」

比較的沈みやすい浮遊物や泥を沈殿させ、底にたまった汚泥は、汚泥処理施設へ送って処理します。

写真3 最初沈殿池



④「生物反応槽（エアレーションタンク）」

最初沈殿池で沈殿処理を終えた汚水に、最終沈殿池から返送された活性汚泥を混合し、空気を吹き込んで長時間かくはんします。

活性汚泥中の微生物は空気中の酸素と、汚水中に含まれている有機物を栄養分として吸収繁殖し、沈殿しやすいかたまりになります。

写真4 生物反応槽



では、どうしてきれいな水になるのでしょうか？

目に見えない小さな生き物（微生物）が下水処理の主役です。

1リットルの汚水の中には、およそ200種類、数にして日本の人口の2倍の微生物が生息しています。

写真のような微生物は、エアレーションタンクの中にたくさん生息していて「活性汚泥」と呼ばれるドロをつくっています。

このドロに空気を吹き込むと、汚れを食べて水をきれいにします。

さらに塩素で消毒したのちきれいな水として松永湾に放流します。

写真5 微生物



⑤「最終沈殿池」

最終沈殿池

沈殿しやすいかたまりになった微生物（活性汚泥）と水とを分離させる池で、うわずみ水は消毒して海へ放流します。

また池の底に沈んだ微生物は、エアレーションタンクへ送りかえされ、残りは汚泥処理施設へ送って処理します。

写真6 最終沈殿池

